

教育後援会ってなあに？



● ※注釈 1：附属学校（園）ってどんなところ？

附属学校とは、上級教育機関に附属する就学前教育（幼稚園）、初等教育（小学校）、中等教育（中・高等学校）を行う学校のことで、そのほとんどが国立大学（一部短期大学を含む）を頂点に以下を附属学校としていますが、高等学校を頂点としているケースもあります。

最も歴史の長い附属小学校は、明治5年に開校された筑波大学附属小学校。国内最古の国立小学校であり、日本の教育の歴史と共に歩んできました。ちなみに、幼稚園では明治9年開園のお茶の水女子大学附属幼稚園。当時の名称は東京女子師範学校附属幼稚園でした。

平成30年4月現在、国立大学に附属する附属学校は全国56大学に幼稚園49園、小学校70校、中学校71校、高等学校15校、義務教育学校2校、特別支援学校45校の計256校園。約9万人の子どもたちが学んでいます。大学や地域と連携し、教員の養成・研修や学校教育の実践研究による指導法の開発などを通して、国内の公教育の中核を支えている附属学校。日本の教育水準向上を目指す大切な役割を担っています。

● ※注釈 2：教育後援会ってどんな組織？

教育後援会とは、附属学校園で学ぶ子どもたちの教育環境を整備し、より豊かな学びを提供していくためにつくられた団体です。古くは戦災や老朽化してしまった建物の復興を目指すため、保護者や会員相互の親睦・交流を図るためなど、発足年やその経緯もさまざまです。

PTAが学校単位で結成された教育組織であるのに対し、教育後援会は附属学校在学生の父母や保護者（または関係者）によって設立された学校外のサポート組織。エリアによって附属幼・小・中学校で一つの教育後援会を運営している地域もあれば、それぞれに単体で運営しているケースもあります。いずれの教育後援会も、寄付金を通して教育事業の充実を図るという共通の柱を持っています。

● ※注釈 3：教えて！お金のこと（学校運営費の現状）

附属学校を運営するには、施設・設備費、人件費、職員旅費、講師謝金、消耗品費などの様々な経費が発生します。

これらの経費の財源は主に国からの運営費交付金、大学の授業料収入等で賄われていますが、近年、国は、基盤的な運営費交付金を減らしつつ、競争的な公募型の研究費や企業からの寄付金などの大学による自己収入の獲得を奨励しています。

その結果、一部の大学では十分な収入を獲得できず、これまでのような附属学校の運営が苦しくなっているところもあるとされています。

一方、AI等の発達により、今後大きな社会の変化が予測される中、ICT機器の整備や感性を磨く芸術文化活動など、学校の教育活動にはこれまで以上に予算をかけていく必要があると考えます。

このため、附属学校の教育内容の一層の充実・向上を図るため、教育後援会による寄付金活動は極めて重要になっています。

※注釈 1：全附連公式サイトより一部抜粋

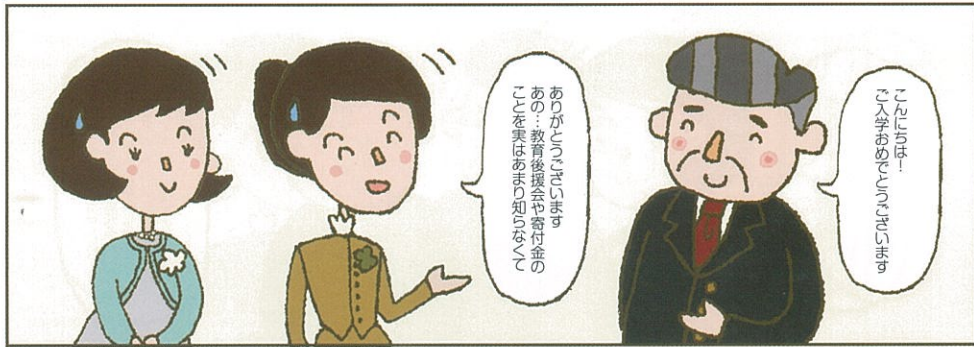
※注釈 2：全附連「附属学校園の現状についての実態調査報告書（平成29年度）」参照

発行：2018年9月

●●●●● お問合せ先 ●●●●●

全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会

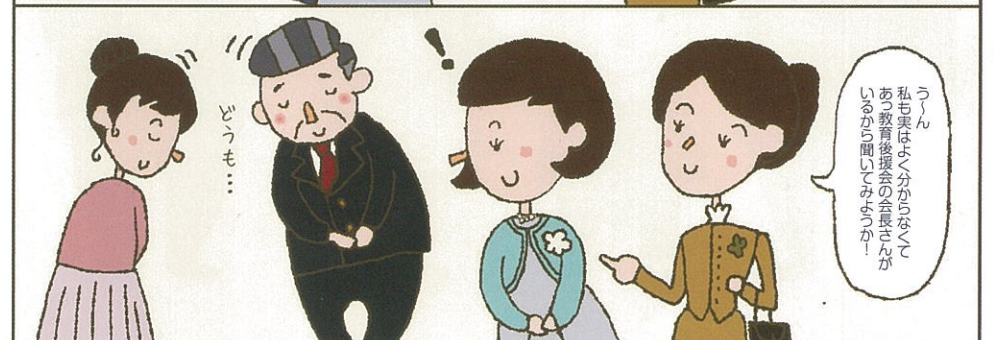
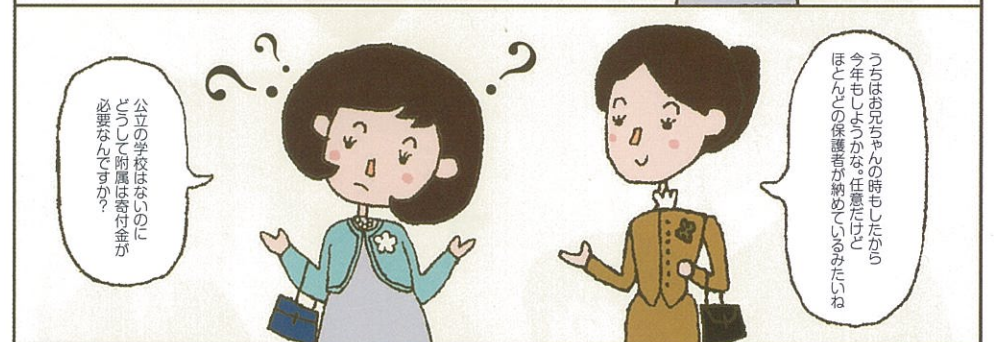
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-29 虎ノ門産業ビル 8F
TEL:03-3591-2091 FAX:03-3591-2092
全附連公式サイト：<http://www.zenfuren.org/>

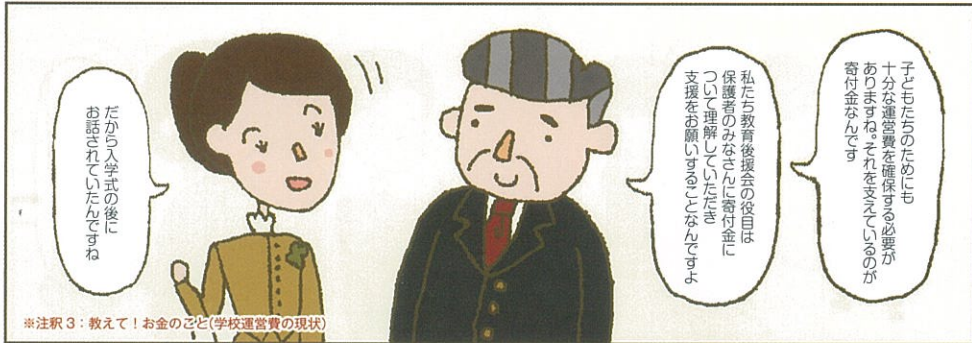


※注釈1: 附属学校(園)ってどんなところ?

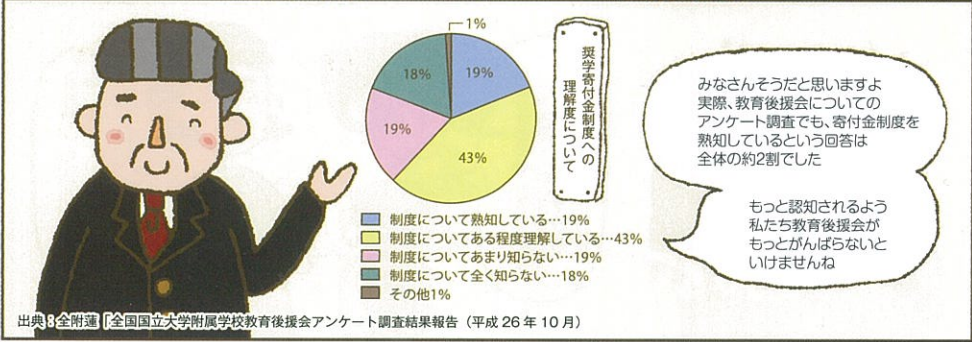
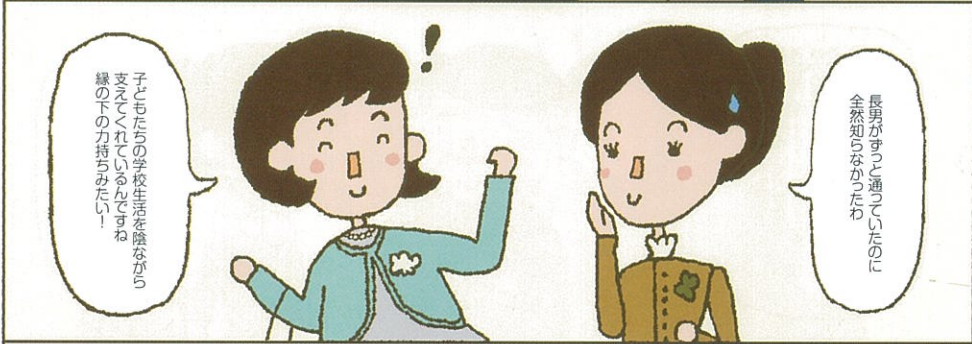
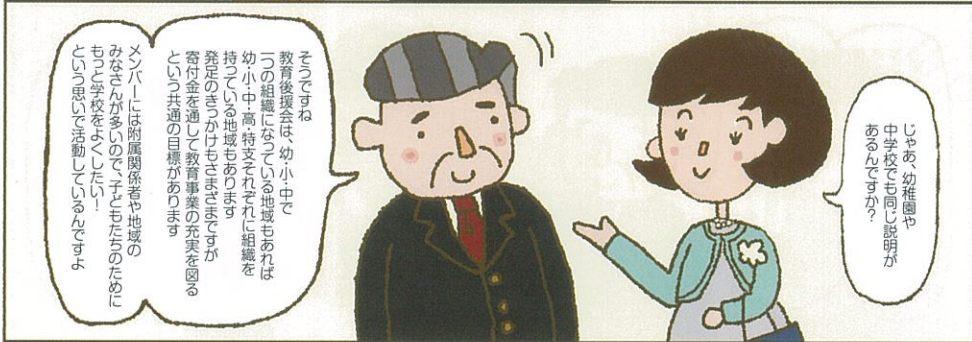


※注釈2: 教育後援会ってどんな組織?

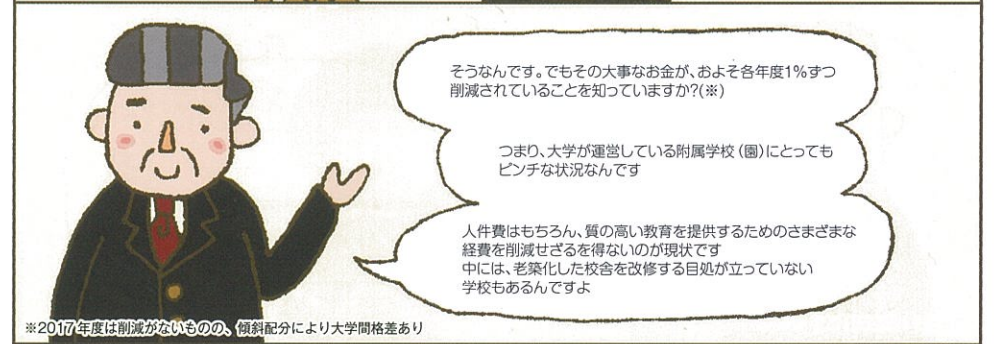
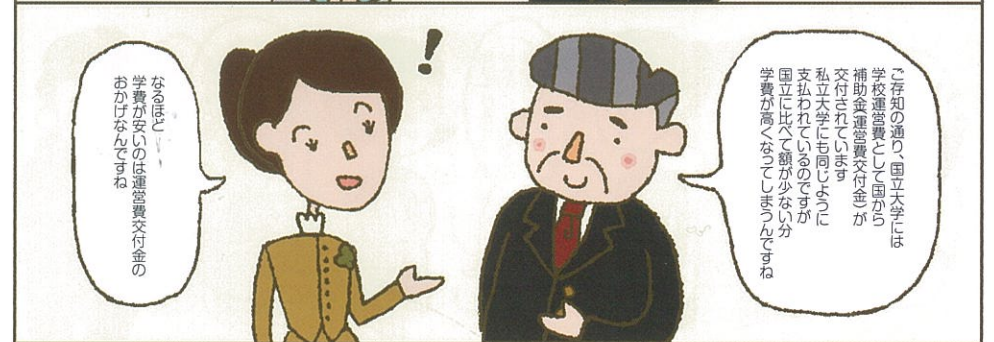
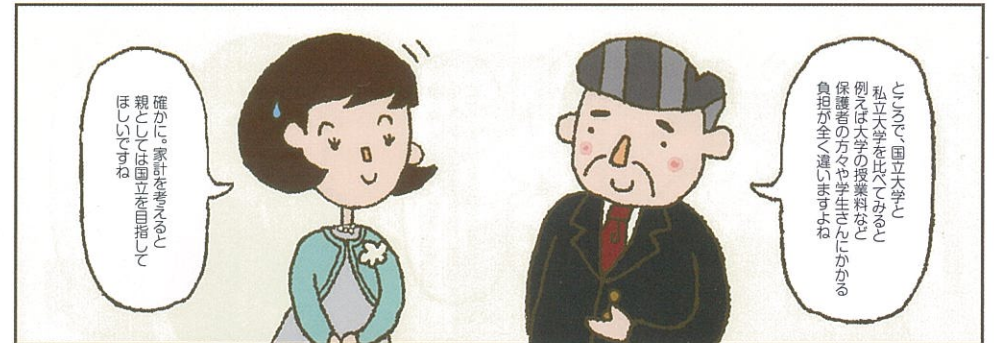




※注釈3：教えて！お金のごと(学校運営費の現状)



出典：全附連「全国国立大学附属学校教育後援会アンケート調査結果報告（平成26年10月）」



※2017年度は削減がないものの、傾斜配分により大学間格差あり

